

環境影響評価の項目及び調査・予測に関する主な住民意見の概要

< 大気質、騒音、振動、悪臭 >

大気質、騒音、振動の現地調査地点は、事業実施区域近傍のみとなっているが、知多南部からの国道及び町道に範囲を広げるべきである。

窒素酸化物、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質の予測内容は年平均値だけなのか。日平均値の98%値や2%除外値も求めるべきである。また、埋立予定地西側の住宅地への影響を検討するため東風の時の1時間値を予測すべきである。

大気質、騒音、振動、悪臭の調査地点について、石田川河口付近、新川河口付近、旭硝子・日本化学境界旧堤防付近、JFE南西交差点等も追加調査すべきである。

窒素酸化物、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、粉じん等の予測地点について、最終処分場にもっとも近い住宅地近傍も予測地点とすべきである。

工用車両や廃棄物運搬車両の大気汚染の予測において、建設機械や埋立・覆土用機械の影響についても考慮すべき。

工用車両や廃棄物運搬車両の運行による大気質、騒音、振動の予測地点について、臨港道路沿道や影響が最大となる地点の周辺の人家等を含む地域とすべきである。

道路沿道の粉じん等の現地調査を行うべきである。

騒音の調査すべき情報として、沿道の建物の用途、構造等を調査する必要がある。

悪臭の調査について、最終処分場の西側にある住宅への影響が把握できる東風の時期を含めるべきである。

< 水質、底質 >

最終処分場西側は陸地と接した計画であることから、陸上部分での地下水質調査、予測、評価が必要である。

慎重な潮流予測を実施し現況再現性を確認すべきである。

水質、潮流の調査地点について、富貴ヨットハーバー出入り口付近、中山火力発電北東水域を追加すべきである。

水質への影響が懸念される場所として、処分場予定地の南側の放流口直近、富貴港内、東側護岸直近を調査地点とすべきである。

透明度も測定しておくべきと考える。

海生生物の体内蓄積物質（有害物質）の調査は必要と思われる。

水質の調査項目に環境ホルモンも加えてもらいたい。

底質の調査について、新川下流、堀川下流、武豊ヨットハーバー周辺、富貴ヨットハーバー周辺についても現地調査を追加すべきである。

<動物、植物>

鳥類の調査について、臨海緑地、武豊火力発電所南の堤防の先などで調査すべきである。

魚卵、稚仔魚、魚介類、水生植物の調査地点について、 1 から 7 及び富貴ヨットハーバー出入り口付近、中山火力発電所の北東海域を追加すべきである。

藻場についてもっと多くの地点で調査すべきである。海藻藻類について、護岸内とその東、北、南の地先も調べる必要を感じる。

<景観、人と自然との触れ合い活動の場>

景観及び人と自然との触れ合い活動の場について、武豊ヨットハーバー周辺も調査地点に加えること。

景観の調査地点について、北側 1 k m 以内の岸壁も追加すべきである。